

九州北部地方 3か月予報（5～7月）の解説

令和6年4月23日発表
福岡管区気象台予報課

3か月予報のポイント

--向こう3か月の見通し--

(気温)

暖かい空気に覆われやすいため、

気温は高い。

(降水量)

前線や湿った空気の影響を受けやすいため、

降水量は平年並が多い。

【留意事項】

- ・ 平年より気温が高いため、**熱中症や農作物の管理等に注意。**
- ・ 梅雨前線の活動が活発になる時期もある見込み。
大雨へ早めの備えを。

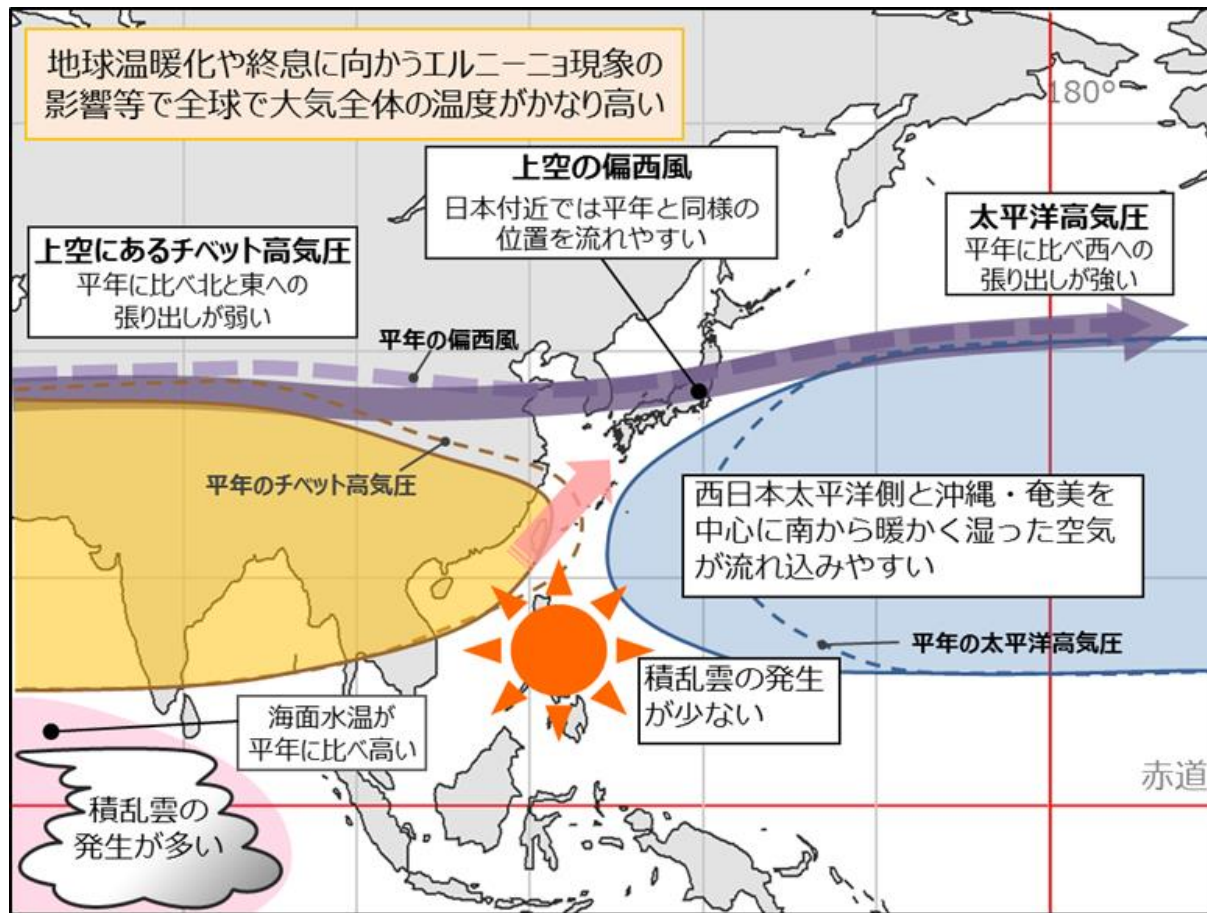
3か月予報（5～7月）

	気温 低 並 高 (%)	降水量 少 並 多 (%)	天候
5～7月	高い 10 : 30 : 60	平年並か多い 20 : 40 : 40	
5月	高い 20 : 30 : 50	ほぼ平年並 30 : 40 : 30	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。
6月	高い 20 : 30 : 50	平年並か多い 20 : 40 : 40	前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多い。
7月	高い 20 : 30 : 50	平年並か多い 20 : 40 : 40	期間の前半は、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多い。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多い。

前回（3月）発表からの変更点

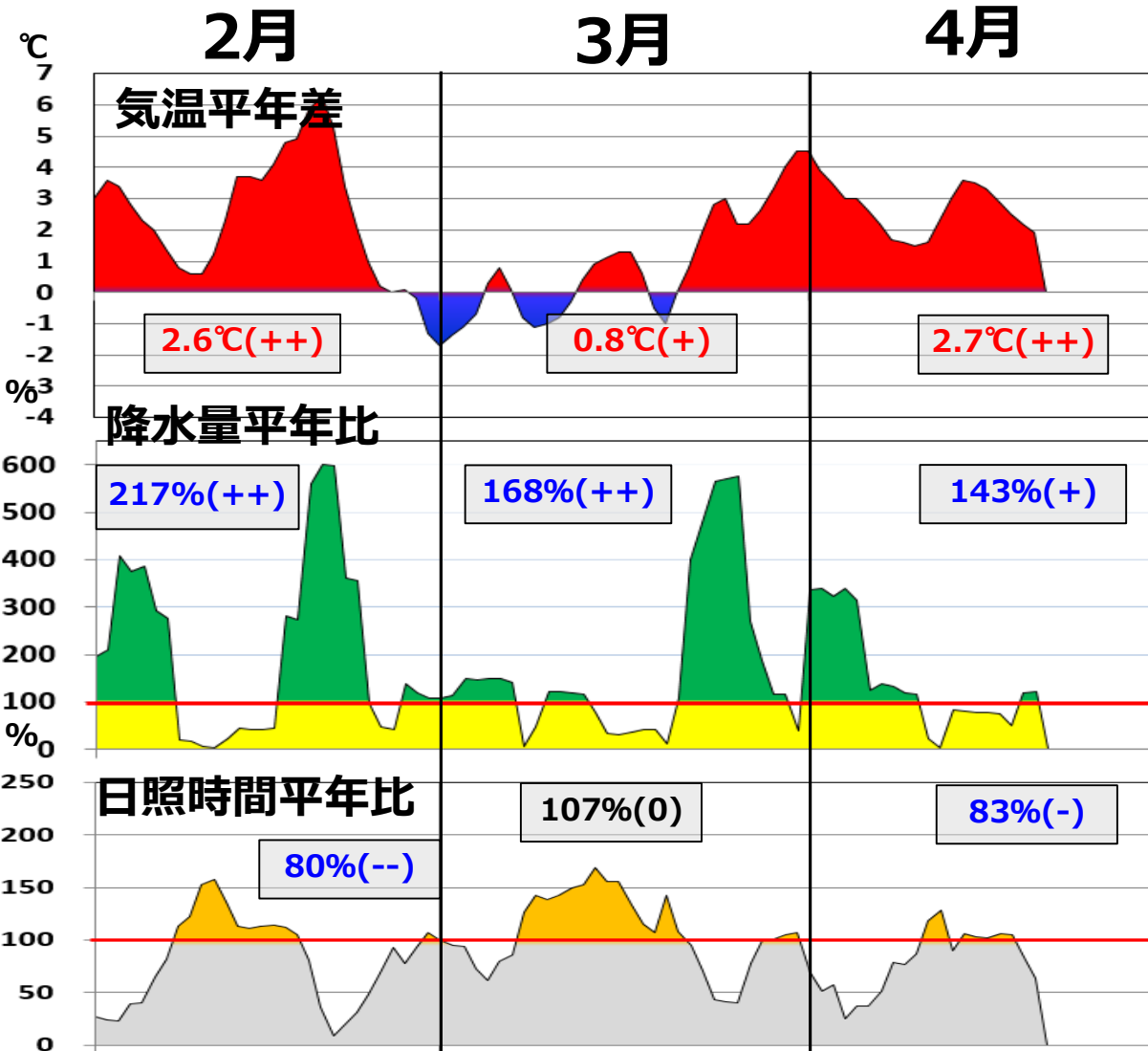
変更なし

3か月（5～7月）の海洋と大気の特徴



- ・九州付近は、南から暖かく湿った空気が流れ込みやすい。
- ・梅雨前線の活動が活発になる時期がある見込み。
 - ・地球温暖化や終息に向かうエルニーニョ現象の影響等により大気全体の温度がかなり高い。
 - ・日本の南で太平洋高気圧の西への張り出しが強く、南から暖かく湿った空気が流れ込みやすい。
 - ・インド洋熱帯域で海面水温が高く、積乱雲の発生はインド洋熱帯域で多い一方、フィリピン付近で少ない。

九州北部地方のこれまでの天候経過（2～4月）



(4月1日～20日の天気概況)

- 高気圧に覆われて晴れた日もあったが、低気圧や前線及び湿った空気の影響を受けやすかったため、曇りや雨の日が多くなった。
- 気温は、暖かい空気に覆われたほか、南からの暖かい空気が流れ込んだ日もあり、平年を大きく上回った。
- 降水量は、平年を上回り、日照時間は平年を下回った。

4/22: 高温に関する早期天候情報 (28日頃からかなりの高温)

4月の値は20日までの暫定値
 グラフは5日移動平均値でプロット

(++) : かなり高い/かなり多い
 (+) : 高い/多い
 (0) : 平年並
 (-) : 低い/少ない
 (--) : かなり低い/かなり少ない

おわり

次回の3か月予報（6～8月）の発表日は、
5月21日（火）です

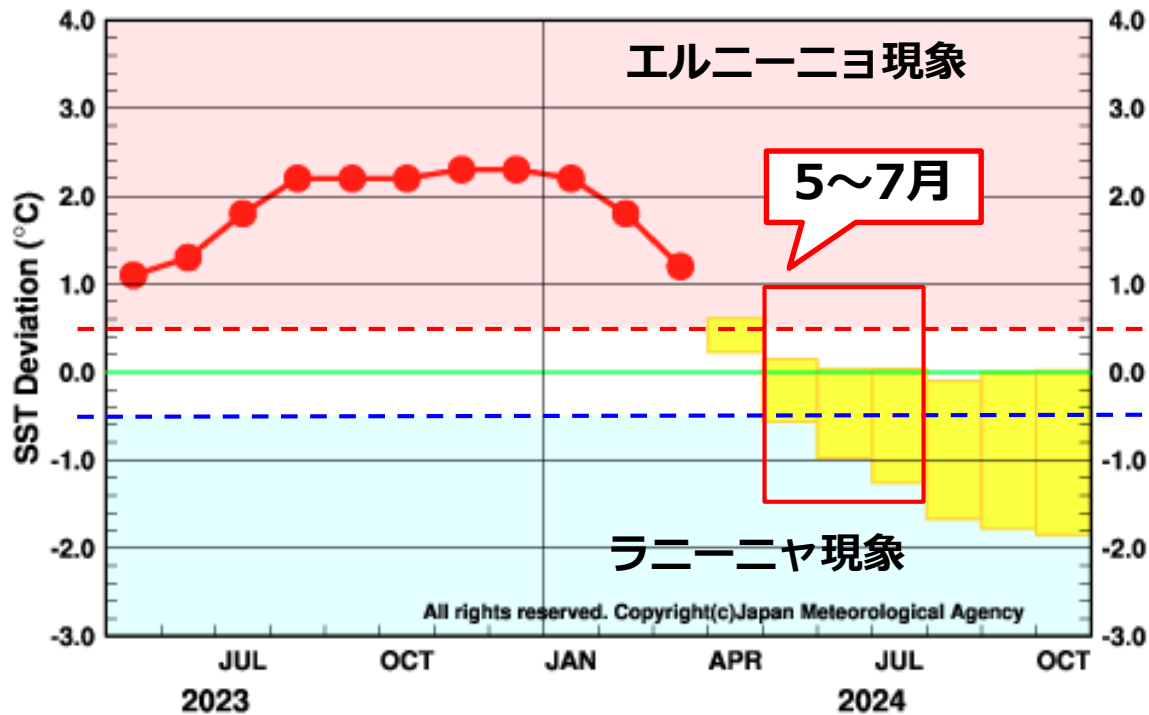
*原則として毎月19～25日の間の火曜日が発表日です

常に最新の予報や早期天候情報、
気象情報等を利用してください

お問い合わせ先
福岡管区気象台
予報課
092-725-3604

エルニーニョ現象の実況と予測

- 昨年春から続いているエルニーニョ現象は、終息に向かっている。
- 今後、春の間にエルニーニョ現象が終息して平常の状態になる可能性が高い(80%)。
- その後、夏の間にはラニーニャ現象が発生する可能性と平常の状態が続く可能性が同程度(50%)。

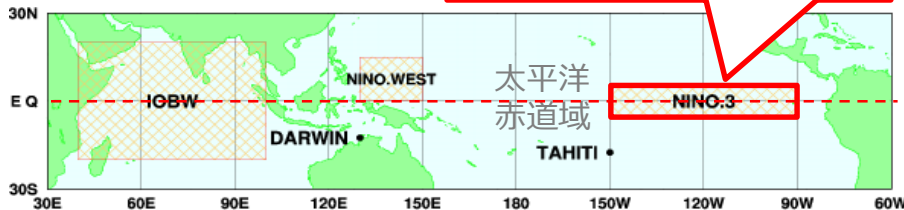


← **+0.5°C** エルニーニョの基準
 ← **-0.5°C** ラニーニャの基準

※月平均の図

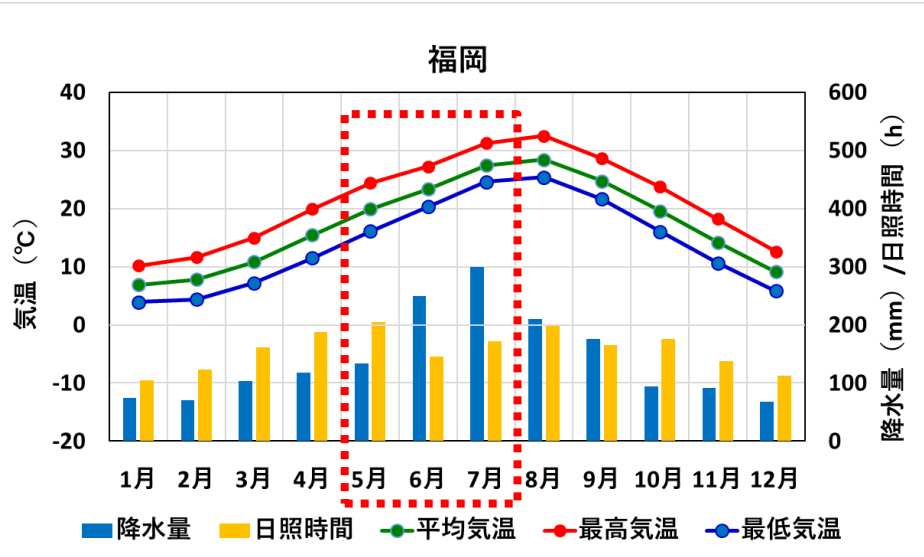
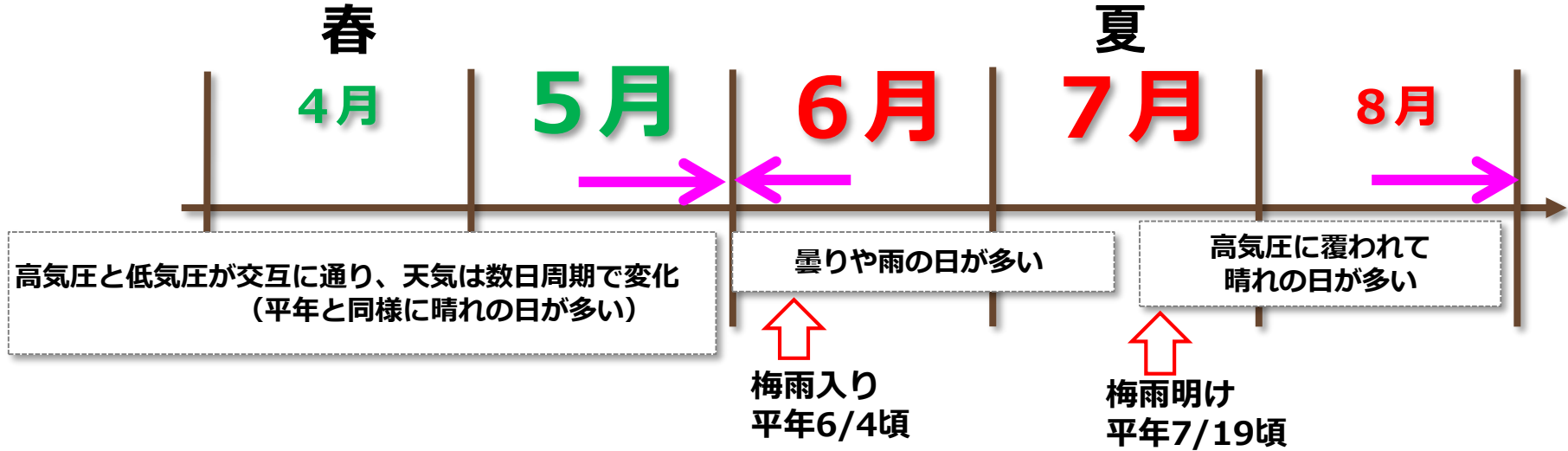
エルニーニョ監視速報 (No.379) より

エルニーニョ監視海域



		2023年										2024年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
月平均海面水温(°C)		28.1	28.2	27.9	27.6	27.3	27.1	27.2	27.3	27.4	27.7	28.1	28.4	
基準値との差(°C)	月平均値	0.5	1.1	1.3	1.8	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	2.2	1.8	1.2	
	5か月移動平均値	+0.7	+1.0	+1.4	+1.7	+1.9	+2.1	+2.2	+2.2	+2.2	+2.0			

九州北部地方の一般的な天候の経過



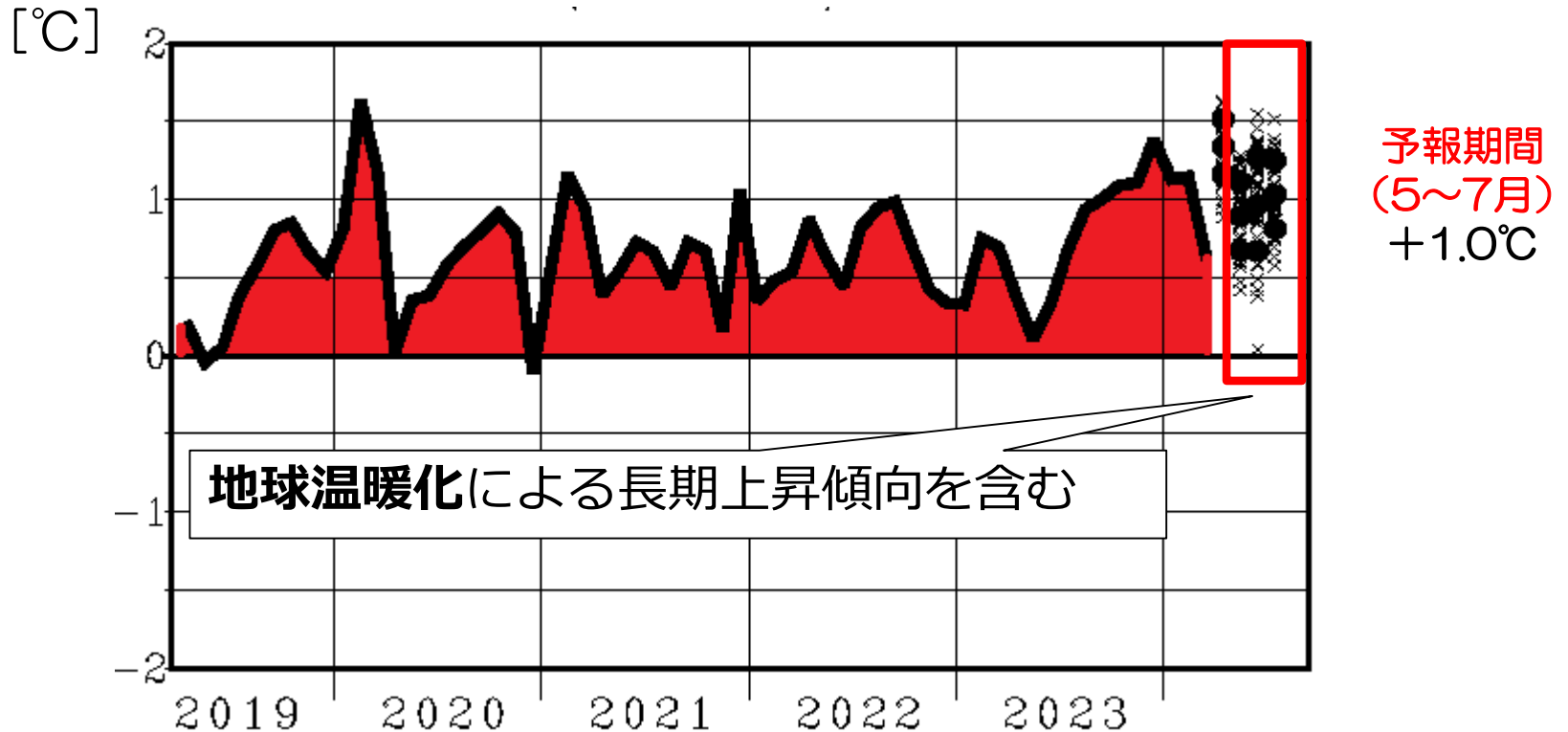
- 気温は上昇
- 降水量は最も多い時期
- 日照時間は5月は多いが6月、7月は少ない

* 台風の九州北部地方への接近数の平年値
5月 0.1個 6月 0.3個 7月 0.8個

気象要素の月ごとの季節変化

大気全体の温度は引き続き高い状態が続く

大気全体（特に北半球中緯度）の 温度が平年より高い状態が継続



北半球中緯度（北緯30~50度）
対流圏（高さ1500~10000m）の温度の平年からの差

現在の平年値の期間 1991~2020年